

# 東日本大震災に学ぶ 構造物の展望

## コンクリート技術講演会開く

大石久和氏が特別講演

フォーラム「あの大震災—日本大震災とこれからの  
災から何を学ぶのか—東—コンクリート技術」は11



被災PC橋の調査報告などを熱心に聴く参加約120人=30日

月30日、福井市の県協  
ビルで開催され、被災地  
の調査報告を受け、土木  
・建築構造物を対象とし  
た今後の展望を学んだ。

主催は公益社団法人日  
本コンクリート工学会中  
部支部。北陸三県コンク  
リート診断士会（石川裕  
夏代表）が共催。参加者  
は福井はじめ石川、富山  
3県会員や国県など行政  
土木職員、一般・学生も  
含む約120人が聴講。

まず石川代表が今企画  
の意義をまじえあいさ  
つ。続く特別講演は国土  
技術研究センターの大石  
久和理事長が「レシリエ  
ントな国土の創造へ—大  
震災を経て問われる日本

人の覚悟」を話し公共事  
業の必要性を世界的なす  
う勢とともに強調。「日  
本海新時代の到来」と意  
義付け社会資本整備を一  
層進展させ、日本全体が  
デフレから一刻も早く脱  
却する展望を示した。

本講演では、まずコン

クリートの技術土木構造  
物編としてプレストレス  
ト・コンクリート建設業  
協会の西垣義彦技術部会  
長がPC橋の調査報告と  
対策、建築構造物編とし  
て福井大学大学院工学研  
究科建築建設工学専攻の  
磯雅人准教授が被害状況  
と対策について、被災地  
の状況を写真をふんだん  
に紹介しながら説明。ま  
た放射性物質封じ込め技  
術編として国立環境研究  
所の山田一夫フェローが  
コンクリートを用いた封  
じ込めが有効で先端耐久  
性研究の最適の応用場所  
である点などを示した。